



全国学力・学習状況調査(3年生)の結果より

先日、新聞等で報道されましたように、3年生を対象に今年4月に実施された、全国学力・学習状況調査の結果が出されました。本校は、三重県・全国平均を若干下回りました。

以下に、分析と今後の方策をお知らせいたします。

1 学力調査からみられる自校児童・生徒の特徴(強みと弱み)

【国語】

「書くこと」では県・全国平均より高い数値となっているが、「話すこと・聞くこと・読むこと」では低くなっている。一方、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」をみると、県平均、全国平均と同程度となっている。特に「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」「事象や行為、心情を表す語句について理解する」については、県・全国平均を上回った数値になっている。

物事に対して自分なりの意見を持つことができるが、他の意見を最後まで聞き、文章の内容を読み取り、ものの見方や考え方を捉え、自分の考えを表現する力が弱いと考えられる。「他の意見を聞く」、「自分の考えを言葉で表現する」、「文章で表現する」機会を多く設定していきたい。

【数学】

「数と式」「データの活用」において、県・全国平均と同程度となっているが、「図形」「関数」においては、若干下回っている。しかしながら、「一次関数の変化の割合の意味を理解している」「箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる」において、平均を上回った。

また、「〇〇を説明する」といったような「自分の考えを表現する」問題は苦手な生徒が多く、この点が本校の弱みである。無回答の生徒についても、意欲がない＝無回答ではなく、考えた末に「何を書いたらいいのか分からなかった」と考えられ、表現する力を養っていく必要がある。日々の授業において、問題を解くだけでなく、「なぜそう考えたのか」を説明する活動を取り入れ、力を伸ばしていきたい。

【理科】

「『生命』を柱とする領域」において、県・全国平均と同程度となっているが、「『エネルギー』を柱とする領域」「『粒子』を柱とする領域」「『地球』を柱とする領域」においては、若干下回っている。しかしながら、「日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象の知識、技能の活用」「観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由の説明」「実験の結果が考察の根拠として十分かどうか検討し、必要な実験を指摘、改善できる」において、平均を上回った。

また、記述式の問題に対して高いポイントとなっている。このことは、単元ごとに「振り返り」を書いたり、自主勉強ノートを用いての家庭学習をしたりすることを大切にしてきた結果だと考える。今後、さらに「積み重ね」を大切にしながら取り組ませていきたい。

2 児童・生徒質問紙からみられる特徴(学習、生活の状況に関して)

高い数値を示した項目は、「将来の夢や目標をもっていますか」「今住んでいる地域の行事に参加していますか」である。この項目に対して50%の生徒が「当てはまる」を選択している。これは、昨年度の職場体験学習や職業講話、進路学習を積み重ねてきた成果だと考えられる。一方で、家庭学習の時間については、学校がある平日も休日ともに「1時間未満である」生徒が40%を超えており、家庭学習よりもゲームやインターネットに費やしている時間が長いのが現状である。

また、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する」「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」の項目に対して、「どちらかと言えば当てはまらない」を選択した生徒が半数近く居るのも現状である。このことから、自分と違う意見に対して、自信を持って意見を言える生徒は少なく、言葉で表現するのが苦手な生

徒が多い。そのため、授業で挙手をして自分の意見を伝えたり、説明したりする活動を取り入れても特定の生徒に偏ってしまう。

学習では、「勉強は大切である」「社会に出たときに役に立つと思う」と考えている生徒が多く、「授業は分かる」といった項目が平均に比べて高くなっている。これは、昨年度より習熟度における数学の少人数授業を実施している成果だと考える。一方で、「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」「理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか」という項目が低いのは課題である。今後授業において、生活に結びつく内容の活動や振り返りを丁寧に行っていきたい。

3 学校質問紙からみた学校の特徴(県や全国との比較)

本校は小規模校であり職員は全学年の授業を受け持っているため、すべての職員が全校生徒の状況を把握しており、連携した取り組みが行いやすい。ICTの活用においても、職員内で分からないことを聞き合える環境があり、研修を深めている。また、道徳や教科授業においては、互いに参観することで意見を出し合って指導の工夫に努めている。

生徒においては、昨年度より一人1台タブレットが配付され、健康チェックや授業の振り返りをしたり、分からないことを調べたりしているため、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」という項目が高いと考えられる。

4 本調査問題の趣旨等を踏まえた授業改善(自校調査結果の分析から強みを伸ばし、弱みを改善する等)、家庭学習や補充学習等としての具体的な取り組み

ア) 授業改善について

すべての教科において、1時間のめあてを設定して、授業の最後にまとめている。また、振り返りシートを各教科工夫し、生徒の気づきや発展した考え方を、その後の授業に取り入れている。今後は、振り返りシートでは書いているものの、発表したり自分の言葉で相手に伝えることが苦手な生徒が多いため、授業内で説明したり活動を取り入れていきたい。

職員の研修においては、相互参観という形をとり、問題解決能力を向上させる授業への理解を深め、授業力の向上に努めている。今年度は、全教員が教育アドバイザーまたは指導主事の先生に授業を参観していただき、今後の授業改善につなげる取り組みをしている。

イ) 家庭学習の定着・工夫について

家庭学習の習慣がつくように、各教科で定期的に宿題を出し、授業で確認することを継続している。学習習慣の定着を図るため、定期試験前にまとめて課題を与えるのではなく、こまめに宿題を出すことを心がけている。第3学年では、帰りの会の時間を用い、3つのレベルから自分で選んだ問題集を用いてあらかじめ作った計画表をもとに中学校3年間の基本の復習ができるように進めている。また、教科によっては、毎回の漢字テスト、小テストを実施したり、定期的に単元テストを実施して自分の定着度を確認させ、テストに向けて家庭学習がしやすくなるよう工夫をしている。

ウ) 補充学習等の充実について

定期テスト期間、及び長期休業中には質問日を設け、生徒の疑問が解決できる時間を保証している。また、長期休業中には、学力の不安な生徒を対象として宿題に取り組む学習会を4回程度行い、分からない問題をそのままにしないよう職員に質問の出来る状況の下で課題に取り組める日を設けている。